

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 4 回 助成期間：平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日（期間 1 年間）

テーマ：クマの住む豊かな森に学ぶ。～今ぼくらにできること～

氏名： 濱口あかり 所属： 信州ツキノワグマ研究会(NPO 法人) 登録番号： 07275

1. 課題の主旨

近年の里山の荒廃や休耕農地の増加に伴い、野生動物と人間の生活域が以前より近くなっているにも関わらず、利便性を追求した現代社会において、人々は野生動植物との接触が少なくなり、“自然”やそこにくらす“野生動物”といったものは自分達の生活とかけ離れたものであるという認識が強くなってきている。そんな中で 2006 年は全国的にツキノワグマの頻繁な人里への出没が社会問題となり、類を見ない大量捕殺が行われた。これは、自然やクマをはじめとする野生動物を自分の生活の中にイメージできない人や、クマに対する知識に乏しい人々が、出没や人身被害の報道を見るたびに過度に反応し、恐怖心を覚え、それが更なる誤解を呼んだ結果と考えられる。

このような事態を防ぐためにも、今後更に人と動物の境界線が曖昧になることを考えても、クマの知識の普及や、クマ対策の啓蒙活動は必要不可欠であり、特に自然や野生動植物との接点が薄くなってしまった子供達に向けては積極的に行っていかなければならない。しかし講演会などでは参加して下さった興味のある方にしか伝えることができないので、不特定多数の来園者が見込める動物園等と協働しながら、現時点でクマに興味のない人たちへ、自然やクマを含めた野生動物のことについての知識の提供、有効な伝達展示手法の開発を目的とし、環境教育への貢献を目指した。

2. 準備

- 1) 触れられる標本の手配(毛皮・頭骨・足型・樹脂で固めた糞 など)
- 2) 紙芝居の作成/劇台本の作成
- 3) 動物園での常設展示パネルの作成
- 4) その他展示物作成
- 5) ワークシートの作成
- 6) クイズの作成

3. 指導方法

- 1) クマの解説
何を食べる、どんな糞をする、体の特徴など。
本物のクマ舎の横で触れられる標本(本物)を用い、クマの生態や行動に関する知識の提供を行い、クマがおかれている現状などを来園者に解説。
- 2) 紙芝居の朗読/劇の上演
人とクマの軋轢問題に触れるため、子どもでも分かるように紙芝居として構成。

「山の主タロー」・・・山小屋のゴミ問題

「お母さんグマとふたごの子グマ」・・・果樹被害問題

「くまのぼうやクー」・・・キャンプ地でのゴミ問題

「ある日森の中クマさんに出会った」・・・人身事故回避のために

3) 常設パネル作成

めくる、まわすなど、ハンズオン形式で展示。

クマの紹介、ツキノワグマとヒグマの生息圏の紹介、身体の特徴、軋轢に関する（ごみ・果樹・防除・出会わないために・であってしまったら）パネル、クマ1年史

4) その他、イベント時等に設置するパネル

痕跡の紹介・解説、動物種クイズ等

5) ワークシート

クイズ形式で冊子に書き込む。

例：問題・・・ツキノワグマの色は何色？また、模様は？

回答方法・・・三日月を描く、色を塗る など。

6) クイズ

○×クイズ、2択クイズなどでクマの生態などを解説

4. 実践内容

1. 春の動物園祭り【須坂市動物園】 2008.03.22～03.23

常設展示パネルアンケート、クマの解説、劇「ある日森の中クマさんに出会った」

参加者数:約 2900 人、アンケート回答者数 78 人 アンケート結果(別添)

2. 春の動物園祭り【長野市茶臼山動物園】 2008.04.19～04.20

ワークシート「自分で作ろう！ツキノワグマ図鑑」、クマの解説、紙芝居の朗読「くまのぼうやクー」

参加者数:ワークシート 100 人、解説 約 1500 人

3. 体験型イベント「臥竜山にクマがでた！？」【須坂市動物園・臥竜山】 2008.05.03

クマの解説、ワークシート、紙芝居の朗読「お母さんグマとふたごの子グマ」、テレメ探し

参加者数:8 人(定員 8 人)

動物園横の小さな山を利用。(片道 1 時間程度)

クマの生態や、山での注意点を動物園内で学習したあと、テレメリー調査を体験してもらう。事前にかくした発信機をさがして出発。途中クマの痕跡パネルを設置。スタンプを集めながら進む。発信機の場所にはクマ(着ぐるみ)が隠れて、参加者を出迎えた。

4. サマーナイト zoo【須坂市動物園】 2008.08.14～08.15

くまの解説、紙芝居の朗読「くまのぼうやクー」

参加者数:約 2100 人、紙芝居:78 人(計 4 回)

5. 明星学園バザー【明星学園】 2008.09.14

パネル展示、クマ解説、紙芝居の朗読「お母さんグマとふたごの子グマ」(計3回)、クイズ、クラフト
参加者数:紙芝居28人、クラフト65人

6. AFC 祭り【信州大学農学部】 2008.09.15

パネル展示、クマの解説、クラフト、紙芝居の朗読「お母さんグマとふたごの子グマ」(1回)
参加者数:クラフト55人、紙芝居10人、解説 約400人

7. 秋の動物園祭り【須坂市動物園】 2008.10.12～10.13

クマの解説(キツネ・シカの頭骨を加える)
参加者数:約3000人

8. 秋の動物園祭り【長野市茶臼山動物園】 2008.10.18～10.19

「クマのあとを探してみよう」
痕跡さがし、竹笛づくり、クマの解説
参加者数:竹笛115人、痕跡探し 約100人 解説 約50人

5. 成果・効果

須坂市動物園に常設展示したパネルでは絵を中心とし、ハンズオン形式を採用した。この新しいパネル展示に関してアンケートを収集した結果、2日間ともに平均88点という高評価を得た。園の担当者の方からは、「以前にもクマの説明パネルを設置していたが、今回の新しいパネルは足をとめて読む人がとても多い」、との評価もいただいている。特に「クマに出会わないために」と、「クマに出会ってしまったら」のパネルに関しては、多くの来園者が興味をもって読んでいく姿が見受けられた。また、パネルを見た後の来園者に解説を行うと、解説パネルによって事前知識が多少なりとも入っているため、興味がより深い部分まで広がる傾向にあることが見て取れた。

現在協働でイベントを行っている須坂動物園・茶臼山動物園ではほぼ毎回、来園者の5割～7割(1500人～3000人程度)の方にクマの解説も行うことができ、この1年でも、10000人以上の方にクマ解説を行った計算となる。また、紙芝居等を用いて、なぜ動物園に野生で保護されたクマがいるのか、動物たちが起こす“農業被害”や“ごみ問題”とはどういったものなのか、それを防ぐためには・・・など、人と野生動物(今回はクマ)の間に起こる軋轢に関して、子供達にも理解を得てもらいやすくなった。実際に、紙芝居の朗読後に小学生から被害防除の話に関する質問が出るなど、自分達の実生活と紙芝居の話が結びつきをもち、身近な問題として捉えられた結果といえる。

6. 所感

この度の理科・環境教育助成によって得られた成果から、人々はクマへの対処法などの興味は持ち合わせていること、人間側への教育の機会を増やすことで、自然や動物への興味関心は増大する可能性を感じた。今後更に他の動物園などへの働きかけも更に高めながらよりこの活動の場を拡大したいと考える。特に長野県のような、野生動物と人との境界線が曖昧になっているにもかかわらずその事実に対して免疫のない人たちが多くすむ場所では、実際にその場で本物の動物が見られる動物園などを活用して伝えていくことは、興味も引きやすいというばかりでなく、一度に数千人単位での啓発活動も可能であるということも注目すべき点である。

また、工夫次第でパネル展示も環境教育の活動に重要な役割を担うことも今回のプロジェクトにより判明した。更に興味の引く方法(色づかいや見せ方等)、伝わりやすい方法を模索したいと考える。

7. 今後の課題や発展性について

この活動は1度や2度行えば終了ということではなく、より多くの方々への普及を目指しているものであるため、着実に根付いていくようにするためには、少しずつレベルアップをさせながら、知識の無い方から、ある程度知識を持った方までが飽きることなく参加できる、長期的且つ、活発な活動が求められる。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

メディア掲載記事

2008.04.27 「クマと人間の共生 考える」(信濃毎日新聞)

2008.04.28 「クマはどこへ? 調査体験イベント」(信濃毎日新聞)

2008.05.19 abn ステーション 「臥竜山にクマがでた! ?」に関する報道(長野朝日放送)